



1. 第 29 回全国大会・開催報告 (2021 年 10 月 30 日(土), オンライン開催)

2021 年 10 月 30 日(土), オンラインにて, 第 29 回全国大会が開催されました。ご参加頂いた多くの方々, 開催に当たりご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。以下にて, 大会プログラムの概要をご報告いたします。

<開会式> 9:30~9:35 開会挨拶：本田正美（全国大会実行副委員長）
<研究発表会> 午前の部：9:40~11:40
第 1 セッション：「情報文化と産業」4 件、第 2 セッション：「情報と人間」3 件
(11:40~13:30：昼食休憩)
<総会> 13:40~14:10
<研究発表会> 午後の部：14:20~15:50
第 3 セッション：「情報と理論」3 件、第 4 セッション：「情報と産業」3 件、
<閉会式> 15:50~16:00
閉会挨拶 須藤 修（情報文化学会 会長、全国大会実行委員長）

2. 情報文化学会第 41 回役員会および 第 29 回通常総会について

本年 2021 年度の情報文化学会全国大会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オンラインでの実施とすることとした。これにともない、定款第 27 条の役員の「出席」要件を満たすことが事実上困難となることから、例年は全国大会と合わせて開催してきた役員会の開催を見合わせた。

定款第 27 条 役員会は、役員の 3 分の 2 以上出席しなければ開くことができない。ただし書面をもって他の出席者に委任した者は、あらかじめ通知のあった事項についてはこれを出席者とみなす。役員会の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決するところに従う。

定款 35 条に定めるところにより、総会についても会員の「出席」が要件とされるため、役員会と同様にその開催が困難となった。

定款第 35 条 総会の議事は、会員数の 6 分の 1 以上が出席しなければ開くことができない。ただし、総会に出席できない会員は書面をもって他の出席会員に委任することができる。その場合あらかじめ通知のあった事項についてこれを出席者とみなす。

定款には、全ての役員及び会員が出席要件を満たせないことにより、役員会及び総会が開催出来ない場合についての定めがない。ついては、定款第 27 条及び第 35 条において、役員会及び総会に出席できない場合に書面をもって委任することが出来る旨を定めていることに鑑み、第 41 回役員会及び 2021 年度・第 29 回通常総会について書面をもって開催した。

1 号議案 2010 年度 事業報告案および収支決算案に関する件

事業報告案[報告事項]

1. 2020 年度全国大会の開催、2. 委員会・支部・部会の活動、3. 学会誌の発行、4. ニュースレターの発行、
5. 学会 Web サイトの運営、6. 学会賞の贈賞、7. 会員数の状況(2020 年 9 月時点)

収支決算案[報告事項] 2020 年度 収支決算書(自 2020 年 4 月 1 日 ~ 2021 年 3 月 31 日)

取 入 の 部	金 額 (単位:円)	差 額 (予算-実績)
1. 入会金・年会費	986,200	-613,800
2. 広告協賛金	0	0
3. 全国大会参加費等	0	0
4. 学会誌採録料	70,000	-10,000
5. 雑収入	19	-
6. 前期繰越金	4,120,233	-
取 入 合 計	5,176,452	-623,800

支 出 の 部	金 額	差 額
1. 印刷製本費	784,401	415,599
2. 事務処理費	22,933	17,067
3. サーバルレンタル費	40,546	19,454
4. 発送費	92,168	27,832
5. 交通費	0	50,000
6. 会議費	0	30,000
7. 消耗品・雑費	3,570	26,430
8. 全国大会運営費・会場会議費	0	100,000
支 出 合 計	943,618	686,382

2021年3月31日現在

資 産 状 況	
現 金	0
銀行預金・郵貯貯金	4,232,834
合 計	4,232,834

第 2 号議案 2021 年度 計画案および収支予算案に関する件

事業計画案[審議事項]

1. 2021 年度全国大会の開催、2. 委員会・支部・部会の活動、3. 学会誌の発行、4. ニュースレターの発行
5. 学会賞の贈賞、6. 会員数について

収支予算案[審議事項] (2021 年度 収支予算書(自 2021 年 4 月 1 日 ~ 2022 年 3 月 31 日))

収入の部	金額 (単位:千円)
1. 入会費・年会費	¥1,600,000
2. 広告協賛費	¥0
3. 全国大会参加費	¥0
4. 学会誌採録料	¥80,000
収入合計	¥1,680,000

支出の部	金額 (単位:千円)	備考
1. 印刷製本費	¥1,200,000	学会誌・予稿集他
2. 事務処理費	¥35,000	
3. 通信費	¥55,000	サーバレンタル・管理費他
4. 発送費	¥120,000	学会誌等封入発送費他
5. 交通費	¥50,000	
6. 研究・会議費	¥40,000	支部活動・委員会等
7. 消耗品・雑費	¥30,000	
8. 全国大会運営費	¥70,000	オンライン開催に関する経費等
会場会議費	¥0	オンライン形式のみのため
計	¥1,600,000	

3. 2021年度 支部・部会報告

・中部支部 大会

開催日時：2021年12月18日（土） 10:00～16:40 会場発表、オンライン発表、会場発表/オンライン発表にて開催

・九州支部 大会

開催日時：2022年2月11日（金・建国記念日） 12:50～16:30 オンライン開催

・第20回 関東支部研究会

開催日時：2022年2月25日（金） 13:00～16:00 オンライン開催

4. 第30回 全国大会開催のご案内

第30回全国大会は2022年11月5日(土)に開催いたします。発表のエントリー方法、発表原稿等の受付方法は下記をご参照ください。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

4.1 統一テーマ、会場について

*統一テーマ：未定（決定次第、発表します）

*日 程：2022年11月5日（土）

*プログラム：開会式、研究発表、基調講演、総会、閉会式、交流会

*会 場：オンラインでの実施を基調に現地開催について検討中（現地開催の場合は、都内で実施。その際にもオンラインでの参加も可能となるように準備します）

※現地で開催する場合、会場は決定次第、学会ウェブサイトにて告知予定

*大会参加費：5,000円（一般会員）、3,000円（学生会員・参事会員）、5,000円（非会員）

*交流会費：5,000円（一般会員）、3,000円（学生会員・参事会員）、5,000円（非会員）

※オンラインのみの実施の場合には、大会参加費・交流会費は徴収しません。

4.2 発表のエントリーについて

(1) エントリー期間／受付先

- ①受付期間： **2022年8月1日(月)～9月2日(金)** *注意：この期間以外での受付は一切致しません。
- ②受付先： taikai@jouhou-bunka.jp (全国大会 発表申込・受付担当 宛)
- ③申込方法： エントリー時に発表予稿論文を提出

(2) エントリー資格について

- ①著者のうち少なくとも一名は本学会の会員である必要があります。
- ②学部生や大学院生が第一著者や登壇者になることは妨げませんが、その場合には、エントリー時に指導教員の連絡先も対応責任者の連絡先と合わせて届出して下さい。
- ③一人で複数の発表の第一著者や登壇者になることは認めません。複数の発表の共著者になることは妨げません。

(3) 提出物：「発表予稿論文」

- ①メール本文に「対応責任者の連絡先」を明記して下さい。以後のやりとりは対応責任者の方と行います。
- ②提出後の変更は一切受け付けません。
※発表の順番・時間帯についての希望も受け付けません。

(4) 発表予稿論文について

- ① 原稿の様式： A4 で 2 枚～4 枚 「MS-Word 版」と「PDF 版」、両方を提出
- ② 形式は自由(ただし、論文形式であること)。カメラレディ版での提出をお願いします。
- ③ 提出原稿につき、形式上・内容上で本大会の趣旨から著しく逸脱したものと実行委員会が判断した場合には、発表を受け付けないことがあります。

5. 『情報文化学会誌』への論文投稿

<各号の締切日>

各巻第 1 号への投稿：3 月 15 日(消印有効)

各巻第 2 号への投稿：7 月 10 日(消印有効)

詳細は、学会ウェブの下記「学会誌」のページ、および下記「投稿規定」をご参照ください。

(「学会誌」のページ：<http://jouhou-bunka.jp/journal>)

(「投稿規定」：<http://jouhou-bunka.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/tokokitei210322-2.pdf>)

6. 「JICS 便り」名誉会長 片方 善治 — 情報文化と DX 《共通のコンセプト》 —

多くのメディアで「DX= Digital Transformation」が盛んに述べられている。この DX の考え方は、2004 年、スウェーデンのウメオ大学のエリック・ストルターマン教授が提唱したもので、欧米では、2000 年代初頭から注目され、活用も行われてきた。このコンセプトは、「DX はデジタル技術の導入を推進するのではなく、テクノロジーによる変化と進化によって広く社会を変革する取り組みにある」としている。実は当学会が 1993 年にされたときのコンセプトは、前述の DX のコンセプトと共通している。ただし DX がデジタル技術を基本にしているのに対し、当学会は情報技術（アナログ&デジタル）をコアにして、その学会活動は理念系・人間系・施設系の 3 つの体系の追及を基本にしている。その成果は情報文化学会誌および例年の全国研究発表大会において発表されている。今年の全国大会における発表者・参加者そして会員各位は、本学会が DX のコンセプトに先駆けていたことを誇りにしてほしいと思っている。